

堀川

かくれ
産業・土木
遺産

川の立体交差

矢田川伏越



川の下に伏越

庄内用水元杵樋門からの水は、矢田川底下にある黄色の線で示す伏越の中を流れる 昔の伏越は船頭の操船する舟も通った

堀川には庄内川の水が流れている。途中で矢田川があるが、堀川と矢田川は立体交差して川底に造られたトンネル^{ふせこし}伏越を水は流下する。寛文3年(1663)に御用水が開削され、当初は庄内川の水を矢田川に流し入れ両川の水を南側で取水していた。しかし矢田川は天井川で用水にも砂が流れ込み維持管理が難しい。このため延宝4年(1676)に御用水が矢田川の川底を流れるように改造された。長さ176.5m、幅2.7m、高さ0.9mの木造で、幅・延長とも大きな矢田川伏越の誕生である。明治10年、犬山と名古屋を結ぶ航路をひらく目的で、黒川が開削された。この時の伏越も木造で2本あり、上流側の東杵は江戸時代とほぼ同規模だが、下流側の西杵は舟が通れるように幅が3.8m、高さ3.1mと大きな断面になっている。壁には通船用の鎖が付けられていた。

セメントがまだ不安定だった明治期に「たたき」工法を改良した「人造石」工法が開発され、矢田川伏越も明治44年5月に人造石で改築された。幅が2.1m、高さ2.6m、延長169.6mのトンネル二連である。人造石は本格的な補修も必要ないまま長期間使うことができた。それも昭和30年に取り壊され鉄筋コンクリートで改築され舟が通れない構造になった。さらに53年に三階橋ポンプ所の建設に際し改築された。

建設 延宝4年(1676)：最初の御用水伏越 何度か改築
明治10年：黒川開削により舟が通れる伏越に改築

特徴 三階橋の名は伏越に由来：1階伏越 2階矢田川 3階橋

所在 守山区瀬古一丁目～北区辻町(矢田川三階橋上流)

管理者 名古屋市

堀川

かくれ
産業・土木
遺産

土木技術の進歩が生んだ 天然プールと黒川樋門



▲ 子どもたちが水泳に興じる天然プール(昭和10年頃)

◀ 復元された黒川樋門

建設：明治44年

消滅：昭和52年

所在地：名古屋市北区辻町

土木工事は、かつては土と木が主な材料であった。矢田川の川底に造られた^{ふせこし}伏越も木造だ。もし伏越が壊れたら矢田川の水は堤内地(人が住んでいる側)へ押し寄せて大水害を引き起こす。だから万一に備えて「コ」の字型に伏越の出口を囲む「枡形」と呼ぶ土手が築かれていた。

明治44年に伏越が耐水能力の高い人造石で改築された。木造よりはるかに強度があるので枡形は不要となり、伏越の出口に分水のための池が造られた。プールがほとんどなかった時代、分水池に子どもたちが水泳に集まり「天然プール」と呼ばれ賑わった。

昭和30年代になると庄内川の水質が悪化し、プールの整備とも相まって泳ぐ子どもは減ってゆき、52年に分水池を埋め三階橋ポンプ所を建設する工事が始まった。今では黒川樋門^{ひもん}の脇に立つ「天然プールの碑」だけが、在りし日の姿を伝えている。

分水池からの水量を調整するため、流出口に樋門(ゲート)が設けられていた。分水池は三階橋ポンプ所に姿を変えたが、黒川樋門は少し位置を変えて昭和55年に元の姿で復元された。実際の流量調整はポンプ所内のゲートで行っているが、レトロな特色ある景観は地域のランドマークにもなり、平成4年に名古屋市都市景観重要建築物等に指定された。